



乗馬体験、ソーラーカーの試乗、太田焼きそばの調理体験など様々な体験ができる

「まちの先生見本市」は学校では教えない知識や経験を、行政や企業、ボランティア団体などが一緒にやって、子どもたちに伝えていこうというもので、これまで色々な人がまちの先生として参加してきました。

我々としては、この「まちの先生見本市」が群馬県各地に広がってほしいと思っています。既に群馬大学工学部の桐生キャンパスで「桐生まちの先生見本市」を行い、桐生市まで活動が広がっています。今後、県内外関係なく続け、単純に人を集めるだけでなく、そこから人と人の繋がりが生み出せるようにしたいと思います。

関心を持つきっかけづくりを

我々の活動の目的の1つに、『子どもたちが環境は大事だと気づく場を作る』ということがあります。「まちの先生見本市」も「地球環境映像祭」も、その流れに沿った取り組みで、子どもたちが関心を持つためのきっかけづくりとして行っています。

また、我々は、もう一つの柱として、『音楽による地域活性化』ということ掲げており、「強戸音楽祭」のお手伝いをさせてもらっています。そこでは、普段発表する機会のない人たちに出演してもらったり、都内で活動している人に出演してもらったりなど、この地域だけでは聴けない音楽を聴いてもらえるような場面を作るように心がけています。

やってきて良かったこと

「まちの先生見本市」には様々なジャンルで活動する人たちが集まりますが、その人たち同士が繋



NPO 法人みんなの未来研究所 須永 徹さん

地域づくりのきっかけ

地域づくりを始めたのは、会社を退職した後です。当時は東京に単身赴任をしていたので、映画を観たり、ライブハウス巡りをしていましたが、群馬の友人たちとは、退職したら漠然とNPOでも始めようという話をしていました。たまたま友人たちがそれぞれ環境に関係のある仕事をしており、みんな環境のことは嫌いではないし、不得意でもないということで、私

まちの先生見本市

の退職と同時にNPOを立ち上げ一緒に活動を始めました。メンバーは現在30人位ですが、大学の地域の活性化について教えている先生がいたり、ユニークな人材がたくさんいます。ですから、我々の団体に入っていると、そういった人たちと接点を持ってお付き合いが出来るというプラスアルファの良さがあります。

現在の活動内容としては、「地

球環境映像祭」や「まちの先生見本市」、「音楽イベント」などを行っています。「まちの先生見本市」はもともと新宿区でスタートしており、今年で11年目を迎えました。私は立ち上げ時から8年目までメンバーとして関わっていました。

その後、我々が主催となり、太田市で1回目の「おおたまちの先生見本市」を開催しました。2回目はまちの先生見本市実行推進協議会を立ち上げ、太田市や教育委員会、商工会議所や富士重工業や関東学園大学など、いわゆる産官民学のメンバーが一体となって、見本市を盛り上げました。



チラシは教育委員会を通して太田市内の全小学校へ配布し、ポスターは300枚を会場近くの店舗などに掲示した。幅広いジャンルの主催者の協力により、多くの人へ告知することが出来た

がって新たに活動を始めてくれることは、やはり嬉しいです。

もちろん、参加した子どもたちや保護者が「本当に良かった」と感じてくれたり、学校の先生から「今度は自分の授業にも出て欲しい」という声を聞くことが出来た時も最高です。

これから

スポーツ的なイベントは、一年中どこでもやっていますが、そのまちが活性化したのかと言ったらよくわからないものです。

継続することは難しいことです。が、「まちの先生見本市」も太田市内に小学校が28校あるならば、28年かけて、毎年1校ずつ開催したいと思っています。

群馬県内あちこちで開催すれば、群馬県中に「まちの先生」の活躍する場が出来て、こんなに面白いことはないですよ。非常にユニークな県になると思います。

学校だけでなく、地域の人たちが子どもたちに色々なことを教えてくれる県。良いと思いませんか。

「地域の未来を作る子どもたちのために」

NPO 法人みんなの未来研究所 須永 徹さん

地域づくり人物リレーは、県内で地域づくり活動をされている方を取材し、紹介して参ります。第12回目は、NPO 法人みんなの未来研究所の須永 徹さんにお話を伺いました。



影響を受けたもの

60年代後半から70年代のロックやフォーク・ミュージックです。また、それらから派生した映画や絵画などの文化にも影響を受けていると思います。

好きな言葉

「やってもいないのに出来ないと言わない」という言葉です。まずやってみることで、最初から完璧なものを出来ないので、試行錯誤しながら少しずつ取り組んでいくしかないですね。

WHO IS NEXT?

次にバトンが渡る人は誰でしょう?

次号をお楽しみに!!